

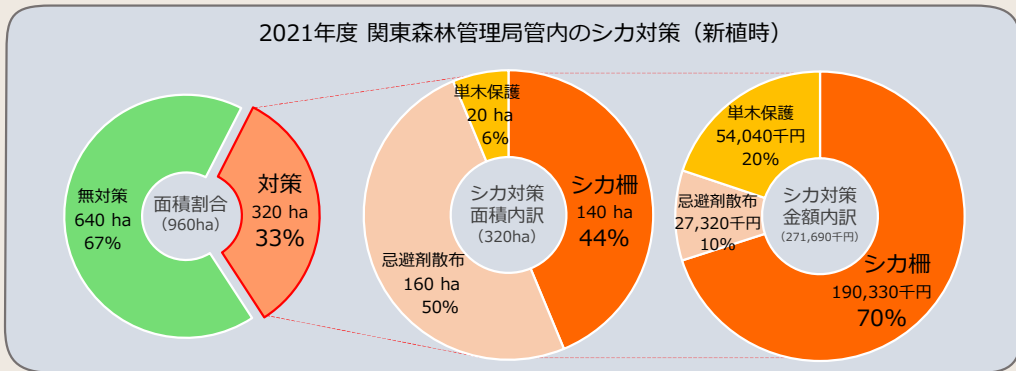
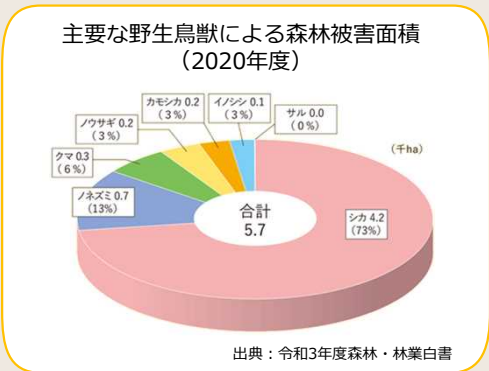
シカ柵トータルコスト把握のための「点検・補修コスト」の情報収集

～ 技術開発課題「点検補修を含めたシカ柵コスト最小化に向けたコスト把握手法の確立」～

森林技術・支援センター 中山優子 菊池敏男 仲田昭一

背景と目的

二ホンジカによる森林被害は、野生鳥獣による森林被害面積の約7割を占めており、再生林や適切な森林整備の実施に支障を及ぼしています。また、二ホンジカの分布域も1978年度から2018年度の40年間で約2.7倍にまで拡大しています。関東森林管理局では、2021年度に新植面積の33%でシカ被害対策を実施しており、その中でシカ柵が占める割合は、対策面積の44%、対策金額では70%になります。今後も主伐、再生林の増加や二ホンジカの分布域の拡大に伴い、シカ被害対策が必要な場所は増えていくことが予想されます。そこで、現在のシカ被害対策の中心であるシカ柵について、そのコスト低減に向けた取組を技術開発課題として今年度から実施することとしました。



現状と課題

シカ被害対策の主な手法の1つである「シカ柵」にかかるコスト低減の検討にあたっては、「設置コスト」、「点検・補修コスト」、「撤去コスト」を把握し、トータルコストをもって検討する必要があります。

- ▶ 「設置コスト」及び「撤去コスト」は実績から把握することができる。
- ▶ 「点検・補修コスト」については**実態の把握が十分にできていない**。
(シカ柵に破損箇所が確認された際、必要の都度補修などの対策を講じてきている。)

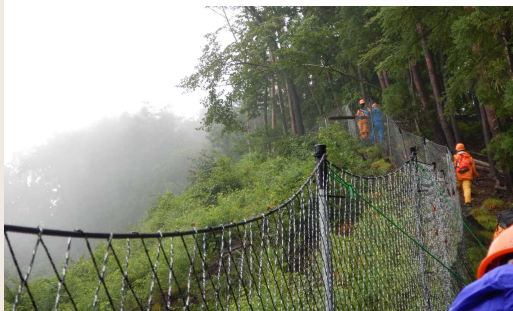
2022年度の取組

シカ柵点検・補修の情報収集用「シカ柵点検・補修シート」作成にむけ実施した取組内容

獣害防護柵点検業務委託の点検・補修業務に同行
(日光森林管理署・森林整備センター)

森林整備センター関東整備局との意見交換、情報共有

「業務実績報告書」のとりまとめ



2023年度からの取組

「シカ柵補修・点検シート(案)」を使用した点検・補修情報の収集・分析

